

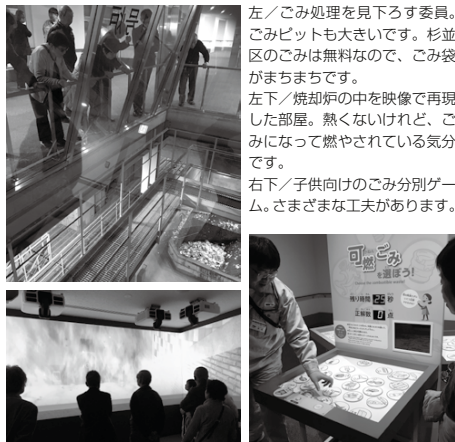
委員研修会報告 杉並清掃工場を見学

駅前のごみ処理施設

本年度の運営協議会委員研修会は、2月1日に高井戸駅から徒歩3分、駅前の一等地にある杉並清掃工場を見学してきました。

東京都23区では一部事務組合を結成し、23区内に19か所設置したごみ焼却場で処理しています。杉並清掃工場はその1つで、平成29年10月に建て替えられました。排ガスなどの法規制値をより厳しく設定した自己規制値をクリアする最新設備をもち、地域に開かれたさまざまな工夫を行っています。

対象地域は杉並区を中心に一部周辺地区の焼却ごみを担うので、その量・大きさは武蔵野市の比ではありません。ちなみに不燃・粗大ごみは23区内に計3か所ある中間処理施設を経て、中央防波堤の最終処分場で処理されています。



左/ごみ処理を見下ろす委員。ごみピットも大きいです。杉並区のごみは無料なので、ごみ袋がまちまちです。
左下/焼却炉の中を映像で再現した部屋。熱くないけれど、ごみになって燃やされている気分です。
右下/子供向けのごみ分別ゲーム。さまざまな工夫があります。

工場見学と環境啓発

工場長や担当者の説明と案内で、工場内を見学しました。ごみの搬入からごみピット投入やごみの燃える炉内も直接見て熱気も感じられるなど、ごみが焼却されるまでの一部始終を実際に見学でき、体験型の仕掛けも随所にありました。杉並区内の全小学校が施設見学を訪れるとのことで、廊下には子どもたちの環境啓発に関する絵がたくさん掲示されていました。

また、国内トップクラスの効率発電により、売電や公共施設の電源利用のほか「高井戸の里 足湯」で地域の楽しみにもなっています。

工場には住民参加の運営協議会が設置され、環境基準や運営に関して点検評価がなされています。

武蔵野市では現在、旧クリーンセンターを一部活用した環境啓発施設「エコプラザ(仮称)」の検討が進められていますが、杉並清掃工場の取り組みなどを参考に、よりよい施設となることを期待したいと思います。

武蔵野クリーンセンターと杉並清掃工場の比較

	焼却量	発電能力	売電収入 (29年度)	延床面積
武蔵野 クリーンセンター	120t/日	2,650kw	約5,000万円	約8,900㎡
杉並清掃工場	600t/日	24,200kw	約4億円 (7月~3月)	約32,000㎡

東京ごみ戦争の歴史を展示

特筆すべきは、工場正面ロビーに「東京ごみ戦争歴史みらい館」があり、旧杉並清掃工場建設の際に起きた、昭和41年~49年の9年間に及び地域住民の建設反対闘争の貴重な資料が映像とともに展示されていることです。昭和46年には美濃部東京都知事が「ごみ戦争」と宣言し裁判闘争にも発展しましたが、住民と行政が激しく衝突しながらも、話し合い、歩み寄り、協力し合った歴史と教訓が伺えます。ぜひ一度ご覧いただきたい施設です。

平成30年度活動報告	平成30年	平成31年
	4/26 第222回 運営協議会会議	1/31 「運営協議会だより」第71号発行
	5/24 第223回 運営協議会会議	2/1 委員研修 参加15名
	8/3 第224回 運営協議会会議	杉並清掃工場
	8/31 「運営協議会だより」第70号発行	2/19 第227回 運営協議会会議
	9/26 第225回 運営協議会会議	2/18, 22, 27, 3/1, 4, 6 環境健康診断実施 申込者170名
	10/7 バス研修会 柴山古墳・はに博物館、航空科学博物館 空の駅(風和里) 参加67名	3/31 「運営協議会だより」第72号発行
	12/2 運営協議会イベント「エコ工場」開催 来場者151名	
	12/17 第226回 運営協議会会議 及び理事者と懇談会	

編集後記

梅の花の蕾がほろほろ桜のたよりが待たれる季節ですが、早いもので新クリーンセンターが稼働し、ごみ減量の役割を果たすエコプラザ(仮称)の整備が行われています。ごみをはじめとした環境問題について市民が深く考え、学び、行動するための啓発施設ができるよう地元住民として見守っていこうと思います。(高橋 豊)

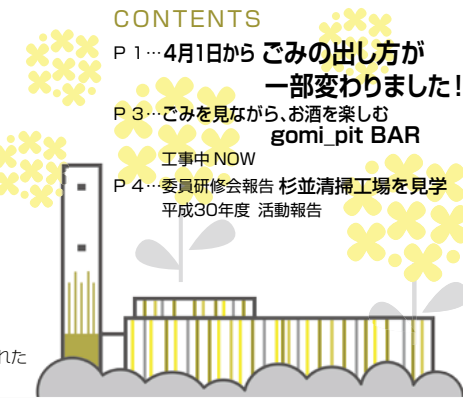
編集・発行/武蔵野クリーンセンター運営協議会
〒180-0012 武蔵野市緑町3-1-5
武蔵野クリーンセンター内
電話: 0422-54-1221
●武蔵野市ホームページ
<http://www.city.musashino.lg.jp/>

*この広報は、再生紙を使用しています。

武蔵野クリーンセンター 運営協議会 だより 72

CONTENTS

- P1...4月1日から ごみの出し方が一部変わりました!
- P3...ごみを見ながら、お酒を楽しむ gomi_pit BAR
- 工事中 NOW
- P4...委員研修会報告 杉並清掃工場を見学 平成30年度 活動報告



武蔵野クリーンセンター運営協議会とは
1984年施設建設時に地域住民の安全と権利を守るために設置された
周辺3地域4団体が参加するクリーンセンター運営の監視役。

4月1日から ごみの出し方が一部変わりました!

4月1日から、一部の品目の収集日と収集地区割が変わりました。市民にとってごみ出しは生活の一部であり、大切なことですので、地区ごとに配布された「ごみと資源の収集カレンダー」で確認してごみを出しましょう。

4月から変更になったことは?

- 一部の収集品目を隔週化に変わりました
 - ・「びん・缶」「ペットボトル」「危険・有害ごみ」
週1回 → 2週間に1回
 - ・「燃やさないごみ」
月2回 → 2週間に1回
- 収集の地区割が再編され、収集日が変わりました
収集日の一部変わりました。クリーンセンター周辺地域では、地区割の変更はありません。
- 一部の品目の名前が変わりました
 - ・その他プラスチック製容器包装
→ プラスチック製容器包装
 - ・有害ごみ → 危険・有害ごみ



4月1日から 周辺4団体のごみ収集区分

	月	火	水	木	金
吉祥寺北町	燃やすごみ	プラスチック製容器包装類	古紙 古着 びん・缶 危険・有害ごみ ペットボトル	燃やすごみ	燃やさないごみ
緑町	古紙 古着 びん・缶 危険・有害ごみ ペットボトル	燃やすごみ	プラスチック製容器包装類	燃やさないごみ	燃やすごみ

なぜ、ごみの収集を変更するの？

品目と収集回数が変わった

武蔵野市のごみ収集は、近隣の他市と比べると収集の回数が多く、行政サービスの適正化とごみ減量・減容化のため、品目を整理し収集のしくみを変更し一部を隔週化(1週間おき)にしました。

収集回数変更の品目は、びん・缶、危険有害ごみ(有害ごみを改名)、ペットボトル。隔週化により時間あたりの収集量が増加して業務を効率化させて、車両台数を減らし、収集コスト抑制につながると考えられています。車両台数が減少すれば、排気ガスも減ることで環境負荷の削減になります。

収集日が変わった

これまで武蔵野市の行政収集の区分は、市内8地区に分かれていました。これを地域ごとに、各地区の世帯数が均等になるよう整理し、10地区になりました。

また、一部の品目が曜日について収集車の台数にばらつきが大きかったことから、1日の業務量を平準化(平均に近づける)ように収集日を見直しました。

この変更で1日あたりの車両台数が平均化されて、人員や設備が効率よく稼働できるようになります。

市民への周知

検討の進め方と周知は市民の立場を考慮して

武蔵野市は、実施が決まった平成30年10月から「武蔵野ごみニュース」、市報などで繰り返し市民に周知を図りました。平成31年2月にごみ便利帳を改定して発行、3月中旬に「ごみと資源の収集カレンダー」を全市民に配布しました。2月中旬から市内各地で市民説明会を行いました。

これまでごみ収集日の変更について知らなかった市民の方もいると思います。3月中旬に全戸配布した「ごみと資源の収集カレンダー」やホームページにお住いの地区のごみ収集日が掲載されています。わからないことがあれば、ごみ総合対策課にお問い合わせください。(電話 60-1802)

市民にとって生活するうえで、ごみ出しは大きな問題です。今回の変更は市のごみ収集事業の効率化のための見直しです。市民説明会も開催されましたが、周知が行きわたっていない部分もあります。また、「ごみと資源の収集カレンダー」が配布されましたが、使い

今までの経緯

地球温暖化やマイクロプラスチック問題、循環型社会への取り組みなど、環境対策の重要性が増す一方で、景気の動向や人件費の高騰、少子高齢化など社会情勢も深刻化してきています。そうした中で武蔵野市では、廃棄物対策を将来にわたりしっかり持続可能なごみ処理事業を進めるため、ごみ収集事業の環境負荷低減と事業の効率化が求められています。

これらを踏まえ武蔵野市は、平成28年1月に学識経験者、公募市民、市民団体、事業者、市をメンバーとして「武蔵野市ごみ収集の在り方等検討委員会」を設置し、議論を重ねてきました。平成30年6月に見直し案を提示し、パブリックコメントを募り、9月に最終報告書が完成、市長答申及び市議会報告を経て、今年4月1日から実施が決まりました。

市のごみ収集事業の見直し案は、今回の「行政収集の隔週化・平準化」を第1弾として、続いて「店頭回収や自主回収の位置付けの明確化」「集団回収制度の見直し」を検討していく予定です。



「ごみと資源の収集カレンダー」をよく見るとここに置いて、確認してごみ出ししましょう

やすい物にしていくには市民目線での工夫も必要です。

集合住宅では、自治会がごみ出し変更について、ごみ停留所の管理、ごみ出し変更の周知、ごみ出しに混乱が予想される高齢者などの対応に苦慮しています。

今回の変更は持続可能なごみ処理事業を目指す第一歩です。今後は、さまざまな視点でごみを出す立場の市民に早い時期での情報提供、広く意見を募ることや十分な説明があることで、私たち市民はよりいっそう理解を深め、ごみ減量・資源化に向けた行動につながるのではないかと思います。

ごみを見ながら、お酒を楽しむ gomi_pit BAR

昨年12月から今年2月にかけてクリーンセンター2階の見学者コースで、ごみ処理を見ながらお酒を楽しむ「gomi_pit BAR(ごみピットバー)」が5回開店しました。クリーンセンターと武蔵野市観光機構がエコツーリズム事業の一環の実証実験として行ったもので期間限定ですが、ユニークな工場見学ということで多くのマスコミに取り上げられ好評です。ふだんあまりごみ処理に興味がない方々にも来ていただき、クリーンセンターの取り組みを楽しみながら知ってほしいというねらいは当たっているようです。

ごみピットを臨むガラスの前にカウンターと椅子が並び、ごみ処理を眺めながらお酒を楽しめます。合わせて行われている工場見学では、ごみ処理の仕組みの説明があります。また、日替わりでジャズ演奏やカクテルショーがあります。

各回定員20名の予約制で、定員を超えると抽選。予想を上回る反響で、市外からの応募も多いようです。1月には1回70名まで拡大されました。

それにしても狭き門で、市民はおろか地元住民にはなかなか気軽に参加できないのは残念です。今後、市民がもっと利用できるようになること、単に観光だけに終わらないことが望まれます。



ガラス越しに大きなクレーンが、ごみピットにたまったごみを攪拌する様子は迫力満点です。スマホで撮影したり熱心に見入る参加者。



食器は使い捨てですが、杉の間伐材でできた皿やサトウキビが原料のバガスでできたタンブラーを使用。バーでは、市内の事業者の協力で、武蔵野の地ビールのほか、形の悪いナンや絞ったあとのユズなどを使った飲み物、大根の皮などの野菜くずを使っておいしく調理された料理が提供されていました。

工事中 NOW

新管理棟と大階段



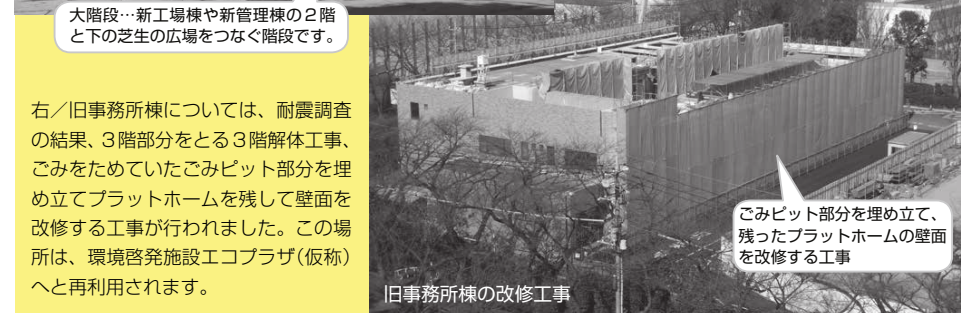
新管理棟の外装・内装工事

大階段・新工場棟や新管理棟の2階と下の芝生の広場をつなぐ階段です。

新管理棟と旧事務所棟の改修

左/現在、新管理棟と旧事務所の改修が進められています。新しい工場棟の西側に隣接する新管理棟は、敷地の中央にあり、クリーンセンターの事務所の他、ごみ総合対策課や見学者ホールなどが入ります。新管理棟の建物は、5月完成予定です。

旧事務所棟の3階部分を取り除く工事



ごみピット部分を埋め立て、残ったプラットフォームの壁面を改修する工事

右/旧事務所棟については、耐震調査の結果、3階部分をとる3階解体工事、ごみをためていたごみピット部分を埋め立てプラットフォームを残して壁面を改修する工事が行われました。この場所は、環境啓発施設エコプラザ(仮称)へと再利用されます。

旧事務所棟の改修工事